

研究紀要第 22 号

【研究主題】

自然体験活動を通じた児童生徒の非認知能力の育成



はじめに

社会が加速度的に変化している今、これまでの知識や技能だけでは対応しきれない問題に対して、当事者として自分なりの考えをもち、他者との対話と合意によって、納得感のある答えを導き出していくような数値化できない力（非認知能力）の育成が求められています。

本調査研究は、今年度を初年度とし、非認知能力についての基礎研究からスタートしました。自然体験活動と非認知能力の育成との親和性の高さを再確認し、集団の中で他者と関わり合いながら課題解決を図る各過程において、子供が「なりたい自分」を意識できるようにするための活動プログラムの構成、子供の観察やフィードバック、振り返り活動のあり方等について議論と実践を重ね、ここに研究紀要第22号としてまとめることができました。しかしながら、研究は緒に就いたばかりで、今後、皆様からの御指導・御助言を賜りながら、非認知能力の育成に向けた効果的な手立てや成果を明確に示してまいります。

結びになりますが、当所の調査研究を進めるにあたり、御支援、御協力いただきました関係の皆様には心から感謝申し上げます。

令和8年3月

鹿児島県立青少年研修センター

目次

I 研究の概要 P1

II 研究の実際 P3~P11

- 1 非認知能力の育成について(P3)
- 2 非認知能力に関するアンケート作成について(P5)
- 3 活動プログラムの工夫改善(指導案)について(P6)
- 4 集団宿泊学習における非認知能力の変容は?(P8)
- 5 主催事業「悠遊学舎わくわくキャンプ」における非認知能力の変容は?(P10)

III 実践事例 P12~P23

受入事業(集団宿泊学習)

【実践事例1】 鹿児島市立西伊敷小学校(P12)

【実践事例2】 鹿児島市立伊敷台小学校(P15)

【実践事例3】 始良市立始良小学校(P17)

主催事業(悠遊学舎わくわくキャンプ)

【実践事例】(P19)

IV 【参考資料】 活動プログラム(指導案) ※工夫・改善継続中 P24

V 研究の成果と課題 P32



【野外炊事の様子】



【野外協力ゲームの様子】

